

太田生涯学習報

はばたき

■発行 大仙市教育委員会 太田分室

太田分室・太田公民館・生涯学習班・スポーツ振興班・給食センター

(題字：鈴木正吾さん・南今泉)

目次

表紙	・	・	・	行く年	くる年
のびのびニュースファイル	・	・	・	・	2ページ
読書感想・新刊案内	・	・	・	・	3ページ
花いっぱい・南忠だより	・	・	・	・	4ページ
町史編さん・文化講演会	・	・	・	・	5ページ
情報アラカルト・輝人さん	・	・	・	・	6ページ
俳句・短歌紹介・輝人さん	・	・	・	・	7ページ
教育随想・太田の子育て	・	・	・	・	8ページ



太田みなみ幼稚園の餅つき (12/15)



白銀のふるさとの山なみ



家族で初詣 (川口神明社)

輝く未来は 家族の絆から

～ 行く年 くる年 ～

さまざまな事件や暗いニュースの多かった05'年も暮れ、すぐそこまで新しい年が近づいています。皆さまにとってこれから迎える年が、希望に満ちあふれたよい年でありますことを願っております。

いつもと変らぬ時の流れでありながら、年が新しくなる——というだけで身が引き締まるのですから、不思議なものです。

お正月を機に、家々の家紋とその由来を調べたり、我が家の正月行事や正月料理の特徴を考えたりしてみてもどうでしょうか。そして、しめ縄のいわれ、門松はなぜたてるのか、地域の行事にはどんなものがあるのかなど子どもたちに話してあげることも大切なことだと思います。

このようなことは家族の絆を深め、親類、縁者とのつながりを広げ、地域に生きることの意味づけにもなることでしょう。

北小学校 発

味は最高 「北小ブランド米」

みんなで育て収穫を味わう

平成17年度、太田北小学校では自分たちが育てたお米を「北小ブランド米」と名づけて、米作りを体験しました。このほど、収穫を感謝し、新米を味わう催しが行われました。

みんなで植え、収穫

北小ではここ数年、「米」をテーマに総合的な学習の時間にバケツ稲を育てる学習に取り組んできました。今年も、米どころ太田に暮らす子どもたちに本物の米作りを体験させたいと願い、学校近くの保護者の田をお借りし、米作りに挑戦しました。

春、全校で田植えを行ったほか、子どもたちは、登下校時や総合の時間に、自分たちの植えた稲の観察を行ってきました。そして、秋には稲刈りを体験し、見事な「北小ブランドあきたこまち」を収穫することができました。

楽しく味わう

自分たちの作ったお米は、10月30日、学習発表会を終えたお昼に、地域の方や家族など総勢二百五十人で炊きたでの「北小ブランド米」で、おにぎりをつくり、みんなで新米を味わいました。



収穫した新米をおいしくいただきました

松ヶ崎小にもプレゼント

当日は、JA秋田おぼこ太田支所の協力で焼き米菓子の実演や、その場でつくった米菓子のお土産もいただき、みんなで収穫の喜びを満喫しました。

この「北小ブランド米」は、今年度交流している由利本荘市立松ヶ崎小学校へクリスマスプレゼントをすることにしています。

スポーツ 発

このほど太田地域の市民を対象に文部科学省の「体力・運動能力調査（スポーツテスト）」が実施されました。

体力・運動能力 テストの結果から

農家や自営業の方などさまざまな職種の20歳から60歳までの男女42人に汗を流していただきました。参加者は「普段運動してねがらな」と言っている挑戦ですが、いざとなると全身の力を振り絞って必死に頑張っていました。

内容は、握力・20mシャトルラン・立ち幅飛びなど6種目を10段階の得点区分で評価し、体力年齢を算出するものです。

若年ほど運動不足？

A～Dの5段階（Aが最上位）の総合評価でC～Dの間にあてはまる人が多く、Bは全体の1割にも達しませんでした。

年代別の体力年齢は、40～50代の人に実際よりも体力年齢の若い人が多く、20～30代は実際よりも年をとっているが目立ちました。この

普段から運動を！（スポーツテスト）



結果から、若い年代に運動から離れている人が多いという実態が現れたのではないのでしょうか。

「体」が基本

各自の健康はもちろんのこと、これからの時代を支えていく若者の体力が少し心配になりました。「智」「徳」を高めることも大切ですが「体」を鍛えることも大切です。この後、二、三月に希望する人の体力・運動能力の測定機会を計画しますので、自分の体力年齢チェックをしてみたいかどうか。

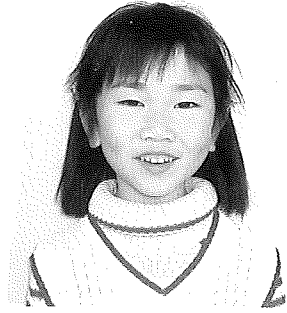
（派遣スポーツ主事 須田忠彰）



「かわいいそうなぞう」を読んで

太田南小学校一年

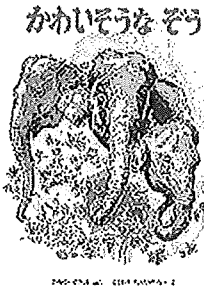
伊藤 いと 七瀬 ななせ



わたしは、「かわいいそうなぞう」をよんではじめてせんそうのことがわかりました。とてもかなしいはなしでした。

この本に出てくるしゅじんこうは、ぞうでした。三びきのぞうは、せんそうのときいたぞうでした。ぞうはえさをもらえず、ころされてしま

います。どうぶつえんの人たちは、「もう、



せんそうをやめてほしい。」といいました。せんそうでももどうぶつもころされてしまうからです。せんそうがなければ、こんなことにならなかったのに。ぞうがかわいそうでした。

「かわいいそうなぞう」を読んで

太田南小学校三年

煤賀 すすが 由梨 ゆり



このおはなしは、むかしの上野動物園のお話で、トンキーとワンリーとジョンの三頭のぞうが出てきます。

わたしが一番かわいそうだと思つたところは、三頭のぞうが、せんそうのために殺されてしまったところです。えさをもらえずに死んでいきました。トンキーとワンリーがすきでした。

ほかの動物もいっぱいころされて

しまったのでざんねんです。今、わたしたちの国は、せんそうがなくてほんとうにしあわせです。

図書の寄贈

ありがとうございます

【寄贈者】秋山由紀子さん(中仙地域)、宮越郷平さん(秋田市)、加藤昭作さん(仙北市)からたくさんの本とCDの寄贈を受けています。ありがとうございます。その一部を紹介します。

「白木蓮」「戊辰晩歌」「冬の航跡」「さくら坂」「評伝 平福百穂」「愛のまわりに」「おなががすいたらごはんたべるんだ」「ディープラブ」など。ご利用ください。



寄贈本コーナー(太田図書館)

太田図書館の新刊

10/20 ~ 11/30 購入分から

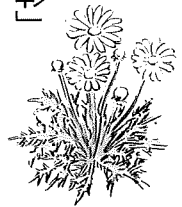
- 日本の音楽 「日本の音1〜6」 高橋秀雄著
- 瀧廉太郎〜天折の響き〜 海老沢敏著
- インターネット安全活用術 石田晴久著
- 英語で読む万葉集 リービ英雄著
- 男鹿和雄画集 男鹿和雄著(三本扇出身)
- さくら 西加奈子著
- 神様がくれた季節 飯島夏樹著
- 生きる意味 上田紀行著
- 子どもの心 二木克明著
- ルポ 戦争協力拒否 吉田敏浩著
- ふるさと歴史ツアー 「生保内街道を行く」 太田町教育委員会
- もういちど宙へ 岩貞るみこ著

きらりとときめき
花のまち太田

特別優秀賞は3団体、2個人

駒場新生会など

おた花の会は「功労表彰」



このほど全県花だんコンクールの表彰式が秋田市「遊学舎」で行われ、コンクールは、秋田県花いっぱい運動の会（会長高橋幸晴）などが主催して毎年実施されているもので、今年度は全県から二百五十四の団体・個人の参加があり、九月に書類・現地審査が行われていました。

個人は高貝さん、藤原さん

太田からは毎年優れた花だんが応募されており、今年度も個人26、団体28の応募がありました。

その中で、各部門の最高位の賞である特別優秀賞には、太田みなみ幼稚園、太田北小学校、駒場新生会、高貝ヨシエさん（南小神成）、藤原サチさん（金井伝）の3団体、2個人がみごと受賞しました。

全員が最優秀賞

花いっぱい運動は、単に花づくりだけではなく、花だん作業をとおして地域の交流や、訪れる人をもてなす気持ちを醸成する活動として、昭和40年代から花づくり40年間、公民館が中心となって進めてきました。

「参加者のすべてが花だんづくり作業で、ふれあい“や”コミュニティづくり“の姿が想像でき、花だ

んの優劣に関係なく、全員が最優秀賞にあたいする」と審査委員長の言



笑顔で記念撮影しました（「遊学舎」11/2）

交流大使として参加

南忠GG宮古島大会

事務局の熊谷さんら

11月の末に行われた南部忠平杯グラウンド・ゴルフ宮古島大会に、秋田太田大会の優勝者の千田久さん（岩手県）、太田大会事務局の熊谷直紀さん（大町）らが交流大使として、親睦しながら太田大会をPRしてきてくれました。



地元の新聞でも

大きく紹介されました

（後列の左端が熊谷さん）

Gゴルフの魅力再発見
岩手・秋田県から参加
Gゴルフの魅力再発見。秋田県から参加した選手たちが、大会で活躍している様子。熊谷直紀さん（事務局）も参加し、選手たちと交流している様子も写っています。

葉に、花いっぱい運動が集約されてきました。
このほかの太田地域の上位表彰者は、次のとおりです。（敬称略）

【優秀賞】太田東小学校【優良賞】太田ひがし幼稚園、太田町老人クラブ連合会、高橋生活改善組合、東今泉フラワー会、小曾野部落会、柳持花の会、小曾野子供地域花だん、上南地域花壇、太田郵便局、伊藤和子、高橋千恵子、田口仁美、安達武男、佐々木英子、後藤圭子、高橋美江、小松紀恵子、大信田祐子、鷹觜力子、高橋武男、大澤貞、福原キミ子、藤原イデ、高橋セツ子、高橋敬子、石崎千代子、高

花の会も受賞

11月8日に社団法人あすの秋田を創る協会創立50周年、県花いっぱい運動の会発足45周年、生活学校開設40周年記念式典が行われ、「おた花の会（会長小松国男、会員百六十名）」があすの秋田を創る協会の功労表彰を受賞しています。おめでとうございます。

橋ユキ、野中キクエ、佐々木昌子、佐々木昭子、富木豊太

モデル花だんは4つ

なお、県の花づくりのお手本となる「モデル花だん（県内14カ所）」に、太田中学校、太田南小学校、小神成花の会、藤原成雄（大町）が指定されています。



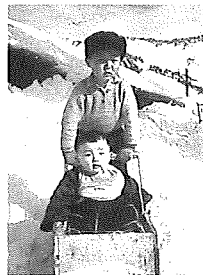
いよいよ雪の季節がやってきました。
 私たちを鍛え、そして守ってくれる存在でもある雪。雪にまつわるちよつと懐かしい写真を集めてみました

町史編さんだより
雪と暮らす
 ～写真で見る太田のくらし～

今では郷愁の代名詞的存在になった「いろり」がですが、いずれは、コタツが消える日がやってくるかもしれません。暮らしの様子は、少しずつ確実に変わっていることを実感させられます。



去年一年間の皆さんの写真を募集しています。風景やできごと、スナップ写真などを教育委員会太田分室にお届けください。後世に残すお手伝いをします。



読売巨人軍前監督

堀内恒夫氏来る

公民館文化講演会

日本野球界をリードしてきた堀内恒夫氏を招いた文化講演会が開催されます。

今回の講演会は、毎年太田球場で夏季キャンプを行っている立教大学野球部の横山OBコーチの紹介で実現しました。横山氏も元巨人軍投手、合宿が取り持つ縁で堀内氏が来てくれるものです。

「私の野球人生」と題して、今だから話せる貴重なお話しに期

待ができます。たくさんのご来場をお待ちします。(あらかじめ公民館で入場整理券をお求めください。— 入場無料)

とき 1月20日(金)
 午後6時30分
 ところ 太田文化プラザ



残すはスキー大会
 町総体の中間成績

運動会など9競技を地域対抗で競う町総合体育大会の中間成績を発表します。

今年度の残りの競技は1月29日に予定されているスキー大会だけです。チャンスはまだありますので、多数参加くださるようお願いいたします。

【体協支部対抗】

永代川口59点、東今泉新田104点、太田118点、小神成89点、斉内249点、新興大町80点、横沢310点、中里74点、三本扇282点、駒場159点、上堰175点、下堰302点

情報アラカルト

スキルアップは公民館講座で
(技術向上)

公民館の主催事業の一環で、冬季講座(6講座)が開かれています。

12月には、クリスマスとお正月料理、正月用の押し花額絵、お正月用生け花、やきもの講座が開かれました。

クリスマス料理講座(講師:鈴木陽子さん)には、17の方が参加し、牛肉の和風マリネ・野菜入り揚げ肉かまぼこ・てまり寿司・はんぺんのチーズフライなど、ちょっとおしゃれな家庭料理に挑戦しました。

冬季講座は、事前の申込みがあればどなたでも参加できます。1月以降は押し花と編み物、パッチワークなどを予定していますので、お気軽にご参加ください。くわしくは、広報だいせん12月16日号参照、または太田公民館・電話88-1119まで

宮城県まで飛んだ風船の種

ひがし幼稚園にお便り届く

太田ひがし幼稚園に思いがけない「花のたより」が届きました。

これは、「自然と仲良し元気な子」をテーマに行っている親子登山(大台)の際

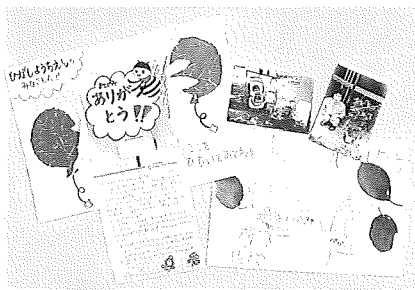
に、大空にはなった風船が宮城県登米市と石巻市まで飛んでいったお返事です。

風船には幼稚園の花だんで採取した花の種に、園児たちの写真をつけて飛ばしました。

園児たちのそれぞれの思いをのせて宮城まで届き、



レパートリー(分野)がふえました



宮城のお二人から届いたお便り

「芽が出たよ」「アサガオやヒマワリが咲いたよ」と書かれた心温まる返事。子どもたちの夢を育む出来事となっています。

☆わが町の「輝人」さん☆

挑戦してみてもよかった



すずき まさこ
鈴木 昌子さん
(相野)

「50歳を記念してロードレースに挑戦してみたら」と主人からの一言。以前から走ってみたくて思っていました。日頃、運動してない私には、「2キロでも無理かもしれない」と言う不安がありました。走れるのは健康だから出来ることと健康に感謝しながらの挑戦です。当日は、秋晴れの奥羽山荘周辺の紅葉の美しいコースを中学生と一緒に走るようになりました。運動不足のせいか途中で歩いてしまい、マイペース(自分自身の歩み)のゴールでしたが、走り終えた後の汗には、今までにない爽やかさと達成感を感じることが出来ました。いつでもできるという気持ちから、一歩進み新しいことへ挑戦することの大切さを、あらためて感じました。

これからも健康に注意を払い、挑戦する気持ちを忘れずにいきたいと思います。

公民館秋まつり俳句会

俳句教室



鉢山の墓地深く鎮める木下闇

藤原 成雄

コンバインの腹に納まる稲穂かな

藤原八重子

選挙戦秋風に乗り声が飛ぶ

高橋 光

留守の間に紅葉一枝供えおり

進藤 順子

空碧く錦織りなす秋の山

野中 龍雄

長月に生まれしこの風に感謝

高橋 睦子

ふだん着の付き合いなりにし藤袴

大信田俊郎

天高く炎舞い散り冬祭り

大信田江里

茗荷食いて度忘れしては白髪櫛す

田口 栄徳

講師の一句

稲の花妻が紅引く床払

藤井 洋舩

サークル・さあくる

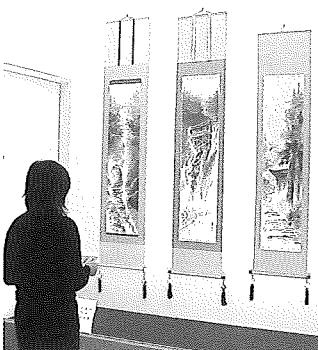


大正琴同好会 (琴伝流)
代表：鷹嘴 カチさん

いろいろな分野の曲を大正琴で奏でてみませんか。その音色に心とみます。

指導：大仙市高梨 池田綾子先生
練習日：毎月2回 (昼)
場所：太田公民館

No.261 ミニ展示コーナー



高橋恵毅水墨画展

会場 太田文化プラザ
会期 平成18年1月15日まで
高橋さんは東今泉の出身で、大花町在住の78歳。全国水墨画コンクールで国土交通大臣賞の「古堂幽悠」など3点。

野路歌会 十一月詠草会



晩秋の冷たき雨の止まずして

落葉散り敷く芝に珠打つ

藤原八重子

二年後を吾が知らざればこの夜も

いでて仰ぎぬ赤き火の星を

湯野沢哲太郎

農道の四方に広き交差点

供花の束が雨に濡れおり

浅利 繁雄

秋深し風呂の温度をちよつと上げて

温もりながら虫の声聞く

伊藤美智子

新しき赤地のパジャマに着せ換える

よろこぶ姑にわれもうれしき

加藤 年子

庭もみじ色さまさまに燃え盛り

散るが惜しまれひねもす眺む

草薨 ミヨ

突然のわが泣く声に夢覚めて

高なる鼓動が暗闇を這う

小松 キヨ

市議選の開票を待つ家々に

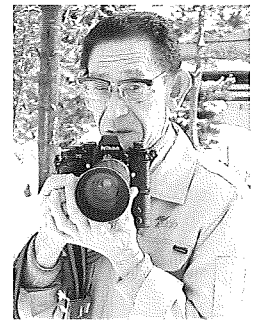
眩しきまでに灯りがともる

佐々木エツ

☆わが町の「輝人」さん☆

Vol. 10

再び手に！カメラ



谷口 直志さん (中村)

私が初めて自分のカメラを持ったのは、昭和30年ごろ十七八歳のときでした。中古で、レンズ交換ができない、今の「写るんです」のようなカメラでした。

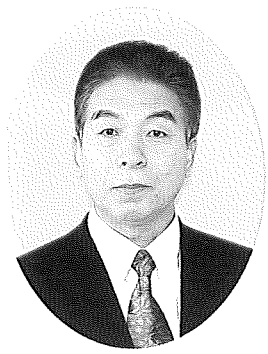
当時、川口の若衆はみんなカメラを持っていて、部落の行事や青年会の活動などを撮りあったものです。以来、カメラを趣味として、主に風景写真を撮影してきました。しかし、老眼が進んでピント合わせに難儀するようになり、ここ数年はカメラをほったらかし状態。

今年、何かの役に立てばと思い、町史編さん室の写真ボランティアとして春から町内を回って歩いていました。

少しでも良い構図や瞬間を：気がついたら再びカメラに対して意欲が湧いてきていました。

上手な写真は撮れませんが、地域の行事や人、風景などを写真に残して行きたいと思っています。

キーワードは「我慢」



大仙市教育長
笹元 嘉辰

教師としてのスタートが横沢小でした。昭和34年、22歳。下宿をしながら2年間お世話になりました。太田を訪れますと、懐かしさで胸一杯になります。以来46年、今もって教育に関わらせていただいております。

話は変わりますが、過日の市議会で「なぜ小さい子供の命が奪われる

ような犯罪が多発するのか」というご質問があり、私は個人的な見解として次の4点を述べました。項目のみ列挙しますと、

- 「個人主義」と「自己中心主義」のはき違え。
- 高度経済成長期以降、堅実な志操、生活が脆弱化した。
- 少子化による人間交流基盤の喪失。命の認識の希薄化。
- したがって、子供たちが「我慢」なく育つて大人になってきていること。

これらの要因が複合し現況を生み出している、という私の見方であり、とりわけ「我慢」ということが、これからの子育てのキーワードになると思っております。

悲嘆のみでは前進しません。常にごからの出発。今日に最善を尽くし、そして明日もベストを尽くそう。これを「アスベスト」と言うのだと、自分に言い聞かせています。

編集後記

大仙市が誕生して10か月。人間で言えば、やっとつかまり立ちができた程度です。

今、仕事にアーカイブズという言葉が出てきます。これは公文書やさまざまな記録を保存し、後の社会に役立てようとするものです。政策や出来事は、後の時代でも公開され評価されることになり、アーカイブズは民主主義の維持発展のためには、大切な仕事になり

ます。

もう一つ、団塊の世代（一九四五年・昭和二十年生まれ）が定年を迎える「二〇〇七年問題」があります。社会全体が就業構造の改善、人員削減などに迫られ、これにあわせて、個人やグループが能力を発揮し、生きがいを感じることできる環境をつくる必要があります。

先日の太田地域づくり研修会は「あなたなら出来る！私にできることがあるか？の気持ちが大切」。また「それが出来ないときは、けなすことだけは止めよう」そんなお話でした。活気のある町づくりに大切なことです。知識を深め、時代を理解し未来に役立つ生活を送りたいものです。（大信田記）



太田の子育て・・・No.107 “読み書きは幼児から？” 本当の好奇心を見誤るな？

■お菓子とハエ

お菓子にハエが来た。手で追いついた子どもを見て、「あなたはハエに興味があるので、ハエについて教えてあよう」そんな教え方をする親はどこにもいません。

でも、幼児の好奇心を利用して文字を教えこませることはこれに似ています。好奇心を持った、子どもは、遊びや悩みによって心を太らせます。

この時期の子どもの発達にソレ教えると向かうのは、ハエ教育と同じなことです。ハエ教育は、付随的である好奇心や知識欲を本質と勘違いすることから始まります。

■幼児は遊びに心を燃やす

子どもの仕事は遊びです。本質的な好奇心は、水や土、草や木であり、けんか相手の仲間です。

これらは自分が動けば千変万化し、おとなになってからは絶対に見ることができない自然や仲間の姿です。

子どもは、その時期でしか経験できないもので心を太らせ情操も養うのです。文字や数は、その千変万化の姿の中にチラチラ見える付属品に過ぎません。

■勉強ざらい

5歳から「知識欲を利用して」など、さかしらな知恵で子を伸ばそうとせず、自然の発達にまかせてのびのびとあるがままに育てることです。

ハエ教育に夢中になり、ほんとうの勉強ざらいにさせないことが大切です。



講演を真剣に（町老人クラブ大会：公民館 11/9）



《編集委員》
藤原 修
大信田英夫
草薨 稔
佐藤 朗
細川 良隆